

平成28年 第2回南アルプス市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成28年10月13日(木)
開会 午前9時30分 閉会 午前10時45分

2. 場 所 南アルプス市教育委員会 2階第2・3会議室

3. 議 題 別紙議事日程のとおり

4. 出席員

市 長	金 丸 一 元
教育長	小 松 重 仁
教育長職務代理者	大 堀 卓
委 員	小 野 ゆ り
委 員	飯 野 章
委 員	津 久 井 豊 徳

5. 説明員	保健福祉部長	石 川 美 奈 子
	子育て支援課長	野 田 剛
	生涯学習課長	名 執 彰 一
	生涯学習課副主幹	清 水 恭 子
	学校教育推進課長	飯 窪 俊 貴

6. 事務局	教育部長	小 野 義 邦
	教育総務課長	柴 田 肇
	教育総務課主幹	五 味 正 寿

7. 傍聴人 2名

事務局 A	<p>これより、平成28年度第2回南アルプス市総合教育会議を始めさせていただきます。それでは次第に従い、進めさせていただきます。最初に金丸市長よりご挨拶をいただきます。宜しくお願いします。</p>
市長	<p>皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、南アルプス市総合教育会議に出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>また、平素から本市の教育行政にご尽力いただいておりますことに、感謝申し上げます。</p> <p>さて、今年度第2回目となる総合教育会議でございますが、6月に開催しました、総合教育会議では、「放課後子ども支援について」と「小中一貫教育について」、教育委員の皆様のご意見等を、お聞かせ頂きました。</p> <p>本日の協議事項は、年間テーマの「放課後子ども支援の推進について」と「学校の適正規模・適正配置について」です。</p> <p>「放課後子ども支援の推進について」では、「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の進捗状況の報告がありますので、ご意見を頂きたいと思っております。</p> <p>また、少子化に伴う人口減少が、全国的な課題となっており、本市においても、児童生徒数は年々、減少しております。</p> <p>本市の学校数は小学校15校、中学校7校、合わせて22校となっています。</p> <p>平成15年の合併から13年半余りが経過する中、これまで小中学校の適正な規模や配置について、検討したことはありませんでした。</p> <p>こうした中、将来を見据え、有効で効率的に教育環境を整備していくためには、学校の適正規模・適正配置の検討が必要だと考えます。</p> <p>今回、協議事項として「学校の適正規模・適正配置について」も取り上げさせて頂きました。</p> <p>本日も様々なご意見を皆様より、頂きたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。</p>
事務局 A	<p>ありがとうございました。続いて協議事項に入ります。議事の進行は、市長が行うこととなっております。宜しくお願いします。</p>

<p>市長</p>	<p>それでは、協議事項に入ります。</p> <p>協議事項（１）「放課後子ども支援の推進について」、放課後児童クラブと放課後子ども教室の進捗状況の報告について、それぞれ担当課より説明をお願いします。</p>
<p>子育て支援課長</p>	<p>放課後児童クラブについて、資料１に基づき進捗状況を説明。施設整備計画のスケジュール説明。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>放課後子ども支援について、進捗状況を説明。</p> <p>教育長を座長とした、放課後子ども支援推進連絡会議を設け、保健福祉部と教育委員会で連絡調整を行い、会議を開催しております。</p> <p>放課後子ども教室の進捗状況ですが、年度当初は５箇所で行っていることを説明し、今年度については、学習支援に重点を置いた放課後子ども教室の拡充を行う計画で、人材発掘について当たってきましたが、見つからない状況で現在、進んでない状況です。今後、学習支援にこだわらず広く、放課後のメニューを提供できるよう、人材発掘を検討していきたいと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>説明が終わりました。ご意見等ございますか。</p> <p>なかなか、支援体制ができないとの説明ですが、この件について、何か方法はないでしょうか。</p> <p>OBの先生方を中心に、その中で現役の大学生のお手伝いがあれば理想的だと思います。その組織化などの良いアイデアはないでしょうか。</p>
<p>飯野委員</p>	<p>学習支援についてですが、貧困の格差が学力の格差に繋がらないことを望ましいと考えています。</p> <p>また学習支援で一番の課題は指導者の確保だと思います。県内でも実施しているところが多いと思いますが、教員のOBが中心となってやっているところや、学生ボランティアが活動しているところもあるようです。本市でも探してはいるが、なかなか見つからない状況との説明ですが、今後も教員OBに働きかけてもらうとともに、積極的に学生ボランティアの方にも声をかけたら良いと思います。教員志望の学生にとっては、とても興味を示してもらえらると思います。</p> <p>また、学生を募る場合は、予算化することや、報酬なども必要があると思います。</p> <p>対象児童・生徒をどのように募るかということも、考えていかなければならないと思います。指導者の確保、対象児童など課題も多</p>

飯野委員	いですが家庭・学校・行政がうまく連携をとって、推進連絡会議等で検討していただきたいと思います。
教育長	<p>学習支援については、飯野委員が言われる通りです。人材という視点からは二通りあります。教員のOBの方と教員を志す学生さんです。私自身も教員OBの何人かの方と話をさせていただきましたが、年金問題など生活面から考えるとボランティアで支援することは、なかなか難しいというのが感想です。学生さんについては、一番の問題は交通費だと思います。市外の学生さんでは、交通費の問題があり、手を上げにくいと思います。</p> <p>飯野委員さんが言うように、予算ということも考えていかなければと思います。事務局から話がありましたように、放課後子ども教室については学習支援にターゲットを置くことより、放課後の支援を拡充させていくことが、大事だと考えています。</p> <p>現在、6つあった子ども教室が、1つ休止していますので、まずは広げていくことが必要と考えます。</p>
小野委員	<p>今年の学校訪問の時に、意識して特に小学校を中心に学習支援の取り組み方について聞きました。市内の小学校すべて何らかの学習支援をやっています。長期の夏休みはもちろんの事、放課後できるところはやっています。</p> <p>私の印象では、学校の規模によって対応の仕方が違うように感じています。小規模の学校の方が、先生たちも子どもたちを集め、学習支援がしやすかったように感じました。大規模の小学校の方が、人数や先生たちの忙しさもあり柔軟に対応するのは難しいのかな、という印象を持ちました。ただ放課後、学習を積んでいくことが必要なお子さんは、家に帰ってからまた来ることはそもそも難しいと思うので、中学校またその先の就労を見据えてみたときに、小学校の放課後を使って学習の楽しさや自分の知っていることの喜びをつなげていく事が、中学校への学習支援につながっていくと思っていますので、できるだけ放課後を活用してほしいと思い、学校訪問時には質問させていただきました。</p> <p>正直、教員の先生の力量の差があるのかなと感じています。先生方もお忙しいので自分の時間をさいての指導、また日常的な教育に加えての指導となるので、負担も大きくなります。その中で、もっと教えてくださいとは言いがたい部分もあります。教員の先生たちプラスアルファで、放課後に子供たちを教える仕組みができないかなという目線で、学校訪問させていただいていました。そこ</p>

小野委員	は少し市の市長たちのお力も借りながら、組織的にまたは経済的な面も含めてご助力いただかないと形にならない気はします。
市長	それは放課後児童教室という形ではなくて、先生方がやっておられるということですね。
小野委員	空き教室、図工室などを使用した形での学習です。主に低学年中心に管理職の先生が宿題プラスわからないところ5分～10分程、学習を見ていただいている状況が多かったです。1・2年生が終われば3・4年生、6校時か終われば5・6年生をやっていて、曜日などはばらばらです。
市長	先生方と教室との連携はいかがでしょうか。
教育長	教員OBの先生方にお話をさせていただくと、やはり自分たちも学校の教育に携わっていたこともあり、現職の教員の先生方に遠慮しているという面があるようです。手を上げにくい1つの要因となっていると聞いています。
市長	生涯学習課ではどこまで把握していますか。
生涯学習課長	現状で各学校の先生がどの程度、取り組んでいるか、課としては把握していません。
市長	わかりました。この辺を整理していかなければなりません。
学校教育推進課長	<p>今、学校の放課後支援ということで、話がありましたが、実は私達も子どもの頃から学習が十分でない場合は、放課後残って勉強することはそれぞれ経験してきました。</p> <p>本来であれば、学習の進み具合を担当が確認し遅れている部分を見ながら、対応してきました。これは貧困に関わらず行ってきました。</p> <p>しかし、現状で問題となっているのは子どもの安全面です。遅くまで残しておくとうり際に、不審者事件に巻き込まれるということも実際にありました。危険回避のために、帰宅時間を一定にして帰さなければならなくなりました。そうすると残すことが難しくなりました。</p> <p>また、学校の多忙化の問題、やはり会議、研修会や出張が非常に多い中でのことです。管理職が残って学習指導しているところもあるようです。</p> <p>8月に調査を行い集計はまだ、まとまっていませんが、各学校で工夫し放課後を使いながら、また休み時間（中休み）を活用して補</p>

<p>学校教育 推進課長</p>	<p>習などをやっていることが調査であがっています。 あとは長期休み（夏休み・冬休み）などに、登校日を決めて行っているようです。先ほどの子ども教室のからみで言うと、学校でできることと、放課後子ども教室でやっていただけることを、はっきりさせていく必要があるのではないかと感じています。</p>
<p>市長</p>	<p>他にご意見などありますでしょうか。いろんな課題がありますが、基本的に貧困の連鎖をどう断ち切るかが、学習支援において非常に大事になってきます。 いろんな問題を解決して、何とか一体的な取り組みができるようにお願いしたいと思います。それでは次に移ります。 それでは、協議事項2に入ります。 協議事項（2）学校の適正規模・適正配置について、担当課より説明をお願いします。</p>
<p>教育総務 課長</p>	<p>学校の適正規模・適正配置について資料2について説明。</p>
<p>市長</p>	<p>担当より説明がございました。 この適正配置の問題ですが、説明もありましたが人口減少社会へ入り、特に少子化問題が進んでいます。 よって当然、財政面からしても統廃合という問題が出てきます。ただし、小中学校、特に小学校は地域の防災面など中核的な存在であり、児童の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの活動の場でもあり、地域の避難場所などさまざまな役割を担っています。統廃合を考えた時、むずかしい面が多く出てきます。 しかし、これからの社会に対応した学校づくりを検討していく上で、必要があります。 以上を踏まえた中で、学校の適正規模・適正配置について、教育委員の皆さんに、ご意見を頂きたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>補足させていただきますが、学級数の基準の話もありましたが、小学校の大規模校、小規模校はどのような条件で、仕分けをやっていきますか。</p>
<p>教育総務 課長</p>	<p>基準ですが、小学校の小規模学級は6～11クラス、6クラスではクラス替えがありません。大規模校のクラス数は19クラス～30クラスです。 中学校については、小規模校は3クラス～11クラス、クラス替えができない、3クラスに満たないなどです。大規模校は19クラ</p>

教育総務課長	ス～30クラスと示されています。
市長	今の説明を踏まえ、ご意見ありましたらお願いします。
飯野委員	<p>私は小学校の教員でしたがどちらも（大規模校、小規模校）経験しています。その中で、資料にメリット、デメリットが提示されていますが、学校の適正規模とすれば、デメリットをできるだけ削減しメリットを維持していけるかということだと思います。</p> <p>将来的には大きな課題が山積しますが、適正規模を図っていくことは行政としても、大きな役割だと思います。</p> <p>資料を見ても本市の人口統計の推移を見ても、一層少子高齢化が進んでいます。一層、児童の数も減っていく傾向があります。そういう中で、学校においても適正配置、適正規模を将来見据えて、早い段階で検討していく必要があると思います。</p> <p>今、国や県では適正規模の基準が示されています。この基準に合わない学校などが本市にもあると思われませんが、その基準をたてに、強引でも統廃合を進めていくことはよくないと思います。</p>
津久井委員	<p>自分の経験からですが、適正規模というのは1クラス、20人から30人位がいいのかなと感じています。資料3ページの下に書かれている、現在の本市は小規模校では、マイナス面をプラス面に変えていく努力をしてくと書かれていますが、大事にさせていただきたいと個人的には思います。</p>
市長	<p>ここで言う小規模校とは、芦安小を示していることだと思いますが、芦安の小学校、中学校でどんな問題が起きているか、把握できているのでしょうか。</p>
学校教育推進課長	<p>芦安中では、特色ある教育をしていこうということで、1つは英会話科の特例校ということでやらせていただいています。</p> <p>また自然体験も取り入れ、心と体も充実したものにしていく方向でやっています。</p> <p>問題点で言うと、白根全域を通学区域として申請を受けています。地元、芦安地区で生まれ育った子どもはかなり数が減っていることは事実です。</p> <p>そういった中で、市内から通う子どもたちは、芦安の特色を教育の中で受けたいという子どももいますし、中には大勢の子どもたちの中で人間関係が上手く行かず、心の安定を希望して芦安へ来る子どももいます。</p> <p>現在、小学校へ30名弱、中学校へ20名ほどが通っています。</p>

<p>学校教育 推進課長</p>	<p>少ない人数の中で人間関係を作っていく、小中連携していく中で、更に大きな関係を作り、地域とのつながりの中で大きな関係となっています。その中で、デメリットをメリットにしていく意味で、実際に行われている教育の中で実現していると感じています。</p>
<p>市長</p>	<p>小規模校で考えた時、心配されるのは社会性です。どのように教えていくか、あるいは獲得していくかということが課題となります。教育長も芦安には思い入れが強いと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>芦安地区は、今現在の特区で英会話科を設けて自然環境を背景にした、環境教育も進められています。</p> <p>しかし、小中一貫教育、具体的に言えば小中一貫校、もっと言えば、この4月の学校教育法で位置付けられた義務教育学校を視野に入れていくことが、学校の存続に繋がっていく気がします。</p> <p>市長がおっしゃる学校というのは、地域の学校、長い歴史を持っています。学校がもし廃校となる自体が生まれるならば、芦安地区自体が冷え切ってしまうように感じます。今後、適正配置の問題とからめて、また小中一貫教育の話も一体となって考えていく必要があると、思っています。</p>
<p>大堀委員</p>	<p>個人的には、適正規模もありますが、小規模校でも財政が続く限り小学校だけでも、続けていただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>統廃合や合併は地域との兼ね合いや問題があります。地域の中のコンセンサスを得ながらやらないと、大変なことになります。</p> <p>まず、早い段階で住民の方々にも周知し、理解も得ながら時間をかけてやらないと上手くいきません。</p> <p>本日を機会にこれからこの問題について、慎重に討議をしていきたいと思います。</p>
<p>小野委員</p>	<p>基本的には、本市で取り組んでいる、小学校が小規模校であっても、そのメリットを増やしていける教育、その中で小中一貫型、連携型も見直されているだろうと思いますので、できるだけその形を取りながら、本市の独特の小学校教育ができるかということから中学校も変わっていけると思いますので、今取り組んでいることを丁寧に、地域も交えて具体的にやっていただけたらありがたいなと思います。</p>

<p>市長</p>	<p>ひとつのテストケースで、八田きのくに子どもの村学園がありますが、当初7名くらいではじめて、今180名くらいになっています。順番待ちで4分の3は県外の人たちです。寮に入っている方もいます。わざわざ県外から来ており、レベルの高い人のお子さんが来ていると聞きます。</p> <p>芦安で今、英語特区をやっていますが、その変と小中一貫型の型式が出てくれば、おそらく学力面のアップにもつながると考えます。そうすれば、市内から芦安へ通っていく人も増えると思います。</p> <p>しかし、地域との関係となると少し違いますが、生徒数そのものは徹底して学力アップのレベルを上げていけば、生徒数も増えていくと思います。</p> <p>今後、統廃合の問題は、非常に重要となっていきますので、続けて検討していきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今回の総合教育会議で適性規模・適正配置をテーマにさせていただきましたが、私からすれば、この問題を考えるのは遅いように感じます。本当であればもっと早くから議論すべきであったと思います。極端なことを言えば13年前の合併時から検討すべきでなかったか。</p> <p>今、出てきているように、学校の統廃合をどうにかする視点ではなく、子どもたちの教育にとって、適正配置、適正規模をこのままでいいのだろうか。</p> <p>これから10年先、20年先には学校が現状よりも、かなり変わってくるのが予想されます。もうそれは、10年前から行っていくべきではなかったのでしょうかと、私個人的な感想です。適正規模の問題に組み入れますと、どうしても統廃合の問題が出てきます。</p> <p>これは非常にデリケートで難しい問題です。時間もかかる問題です。</p> <p>であるがゆえに早くから、議論すべきではなかったかと私は思います。</p> <p>市長から話があったように、これからこの問題について、時間をかけて慎重に色んな面について、検討していくことは大賛成です。</p> <p>また、通学区域についても適正配置、適正規模を考える場合、あわせて今後考えていく必要があると思います。</p>

市長	学校の適正規模・適正配置について、ご協議いただき、多くのご意見ありがとうございました。以上で協議事項を終了させていただきます。
事務局 A	ありがとうございました。それでは3、その他ですが何かありますか。
飯野委員	先日、若草南小で不幸にも交通事故がありました。その場所は過去にも事故が起こっています。学校としては押しボタン式の信号機の設置を要望していますが、学校の近くに信号機があることから、設置は難しいとの話を聞いています。 市からも関係機関への働きかけをお願いします。 各学校やPTAからも通学路の危険箇所の要望が上がっていると思いますので、できるだけ早く改善できるようお願いしたい。
市長	早速、県警も来てくれており、押しボタン式の信号機の設置も検討もしています。 あちこちの危険箇所の指摘については、順次、改善するように努力しているところであります。
事務局 A	全ての協議は終了しました。何かご質問等ありますか。 以上ですべての日程が終了しました。これで平成28年第2回アルプス市総合教育会議を閉会といたします。ご苦労さまでした。

この会議録は、会議の次第を録音機で収録し、これを再生補記するとともに、会議の開閉時刻、出席者、その他必要事項を補記して作成したものである。